

テケル、穴淺増トハ思ヒナガラモ、スベキ様ナケレバ、我著タリケル薄黒染ノ衣ノ、脛高ナルヲ脱テ打懸タリ、三位是ヲ空ニ著テ、頰冠シ給タリケレバ、衣短フシテ腰マハリヲ過ズ、墨ノ衣ノ中ヨリ、顔バカリ指出シテ、脛アラハ也、中々直裸ナリツルヨリヲカシカリケレバ、上下萬人ドヨム也、中間法師ニ相具セラレテ、兄公ノ法橋ノ宿所、六條油小路へ御座シケリ、從者ノ法師モ、小袖一ニ白衣ナリ、主ノ三位モ衣計ニ、ホウカブリシテ空也、人目ヲ立テ指ヲサシテ笑ケレバ、○下略

〔新武者物語〕八富田藏人討死の事

富田藏人は比類なき武勇の者なり、新關白秀次の寵臣也、しかるに秀次生害有しかば、藏人も謝恩の爲殉死すべしと、北野經堂の前に出て、すでに切腹せんとする所を、家來ども大勢來りて、藏人を駕に推入、いづくともなくつれて退、京中の貴賤見物に聚りたる者ども、みな掌撫て大笑し、日本一の臆病者かなと、珍敷物語とだにいへば、諸人語て笑ひ種とす、

〔枕草子〕三たとしへなき物

人の笑ふとはらだつと

〔新撰字鏡〕イ恨同、胡墜反、戾也、違也、不測也、顔也、暴也、(中略)伊加留

〔類聚名義抄〕口嚇音赫、イカリ、吒、正此也、怒也、

悵於問又於劌反、イカル、悵、上俗、於、悵、反、イカル、

〔伊呂波字類抄〕人事瞋イカル、

指 蔓 噫 噎 憤 悔 苛 呵 悵 惶 最 潰 候 吒 棄 吐已上イカル 拮 蕪 擠 捺

〔干祿字書〕平聲瞋上、瞋目、下、瞋怒、

〔蓮歩色葉集〕伊イカル瞋同、怒同、恚同、忿同、恚同、

〔名物六帖〕人事四、性行笑啼、惡イカル、發老學庵筆記、資政惡、

嗾呼聲也、音、〔同六〕忍音毅、イカル、忿手粉反、イカル、